

令和4年度 園評価書

園番号 51 園名 原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
『自分が好き みんなが好き』	やってみようが いっぱい	・自分のやりたいことを、自分なりの言葉や仕草などで伝える	・子ども達のやりたいことが実現できるように、どのような方法があるのか、どのような用意をしていけばよいのか等話し合ったりしながら環境を設定している ・自分の思いを伝えようとしている時は、思いを受け止めながらどうしたいのかを引き出す声かけをしたり、伝える時の声の大きさや言葉の使い方について知らせるとの心地良いやりとりを繋げている	B	B	・発言する時にしっかり自分の意見を言うことができていた。誕生日で「大きくならたら何になりたい？」と保育者に聞かれて「まだ今は決まっていません」と他児に感わずに意見を言うことができていた ・自分の時代と違う環境になり、空気をよむすべてを身につけてしまっているように感じる	・保育者の思いを先行させすぎず、子どもがじっくりと考えたり工夫しながら取り組む姿を見守っていく ・「どうしたかったの？」等の言葉かけで、子どもが自分の言葉で思いを表せるよう援助していく ・行動や考えを友達や保育者に認めてもらったり友達を認める経験を増やしていく
		・自分で考え工夫している姿 (子ども理解) を見守り適切に援助している	・試行錯誤できる可動遊具や遊び環境を用意している ・保育者が子どもと一緒に遊ぶ中で、遊び方を知らせたり、子どもの考えや「やってみよう」「もう一回やってみよう」という思いを引き出し挑戦する気持ちに寄り添っている ・手助けが必要な時は、ヒントを与えたりさりげない援助をしている	B	A	・「できた」「できない」ではなく付度を養う力の備ひしるがある ・子どもの気持ちを引き出す言葉かけをしたり、ヒントを与えていた	・思いを受け止めてもらえた経験をたくさん積んでいき、伝わる喜びが感じられるよう思いの受け止めをしていく ・身近な物を見たり、音を聴いたり、物を触ったり匂いを嗅いだりして感じる経験をさせていく
		・身近なものに興味関心をもち五感をつかってあそべる環境がある	・遠足でネイチャーゲームをする中で、見る、聴く、触るなどで自然と触れ合うことの楽しさが味わえる機会をつくっている ・保育者がクリスマス会で楽器演奏をし、子ども達に楽器への興味をもたせたり、その後子ども達が楽器を使う機会をつくり楽器を楽しんだ ・畑の霜柱、タイヤに水を入れて作った水や滝原川に張った氷を見たり触ったりして冬の自然現象を肌で感じている	B	A	・身の置かざるの環境が整えられていて子ども達の興味関心が広がっていた	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・就学までに育てほしい10の姿を踏まえ年齢や個々の発達、経験に合った実態に沿った援助を行っている	・園内研修で各歳児の発達や関わりを振り返り、「就学までに育てほしい10の姿」をおさえ教育保育をしている ・幼児会議、乳児会議において、それぞれの学年の様子や発達をおさえながら活動内容、環境構成や園庭使用時間を見直し実施している	B	B	・日々の保育の計画が10の姿のどの部分に入るのかを考えながら進められていて小学校とのつながりになる。10の姿を保護者にも教えていただくことと家庭でも同じような関わりができると思う ・小学校でも10の姿に関して話をしたが、10の姿を初めて見た教員もいて園とのつながりをもっと学ぶ必要があると感じた	・各歳児において「就学までに育てほしい10の姿」を見据えて指導計画を立て実施していく ・幼児会議、乳児会議を定期的に行えるようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・一人一人の生活リズムの違いを踏まえ安心して穏やかな気持ちで生活できるよう個々への配慮をしている	・登園時、子どもや家族の健康状態、休み中の様子等を聞きとり、伝達事項を書面に必ず記入し職員同士で伝えている ・長期休み明けは、丁寧に受け入れをしゆったりと過ごせるように不安な気持ちを受けとめている ・パーテーションや一人で過ごせる空間を用意し、一人一人のリズムに合わせた対応をしている	B	B	・保育者が子ども達の話を聞いて言葉や大切にしている ・遊びはまわってから始まる。すぐにやめてみる環境が整えられていた ・保育者が子ども達の話を聞いて言葉や大切にしている。一人一人の表情も違っていてそれぞれが楽しく遊んでいた	・順番、順番の子ども達が寂しさを感じないよう玩具を入れ替えたり環境設定していく ・登降園時間記入ファイルに前日の欠席内容の記入を徹底することで、担任以外の職員が受け入れる時に把握し対応できるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの興味、関心、好奇心、探求心を引き出し「やってみよう」と思える環境を構成している	・制作物や遊びに必要な物の見本を掲示したり「○○君は△△を作っているよ」等、友達の様子をさりげなく伝え、友達で作っている物からヒントを得られるようにしている ・チャレンジカードを作り、できたらシールを貼ることで達成感や自信、更なる挑戦に繋げている	B	A	・思考力のところは、園で目指している姿がなかった ・保育者が子ども達の思いをひろい、言葉や大切にしている ・遊びはまわってから始まる。すぐにやめてみる環境が整えられていた ・保育者が子ども達の話を聞いて言葉や大切にしている。一人一人の表情も違っていてそれぞれが楽しく遊んでいた	・保育者が用意しておく環境、子ども達と一緒に用意する環境を明確にしており環境設定していく ・魔材コーナー、制作コーナーを充実させ子ども達が考えたり試したりして作る機会を増やしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な想定の実験を行うと共に、安全チェックやヒヤリハットを検証することで危機管理意識を向上させている	・複数人で人数確認を意識して行い、特に園外では何回も人数確認をしている ・ケガやヒヤリハットがあった時には、すぐに用紙に記入し「安全」の分掌が集計を行い、どの時間や場所が多いかな等を検証し、職員で共通認識している	B	B	・保育者が子ども達の話を聞いて言葉や大切にしている。一人一人の表情も違っていてそれぞれが楽しく遊んでいた	・園庭では自分のクラスだけでなく、他のクラスの子どもの動きにも注意しながら見ていく ・ヒヤリハット用紙の内容に読み、いつでも記入できるようにする ・事故報告書は会議の中で報告、検証し全職員が共通理解できるようにしていく
	(1)健康教育の充実	・感染対策を含めた健康への配慮がされている ・食と体に興味をもてる取り組みがされている	・子どもの体調変化が見られた時は、職員関係のあるクラス担任にも伝え、兄弟の様子も把握し職員で子どもの健康状態を共有している ・健康チェック表を必ず確認し、受け入れ時の聞きとりを具体的にいった。又、朝と昼に検温して体調把握をしている ・毎月、栄養士がイラストや実物を使った食育を実施している	B	A	・食育は長い時間かけての経験が食育につながっていると思う。給食のサンプル展示は本物を見ることで親子の会話になったり、子ども達の食への関心につながっている	・戸外に出る時には意を空欄にして換気を徹底する ・受け入れ時の聞きとりや確認の仕方を検討していく ・箸をなかなか使えない子が多かったので、箸の使用や仕方を家庭に働きかけていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・個別の支援計画に基づき個々の様子に合った関わり方など共有されている ・専門機関との連携を取り合っている	・加配児担当会議を行い、支援方法の検討や情報共有、サポートプランの話し合いをしている ・サポート面談をして保護者と子どもの姿の共有をはかっている ・気になる子の様子を個別記載し、保護者と共有したり専門機関と連携をとっている	B	B	・0歳から5歳までの子ども達を保育しながら会議を行っていくことの大変さや関わる。小学校でも校長が担任の話を開くようにし、教員が悩んでいることなどを一人で抱えこまないようにしている ・園全体で分担して行うことで、担任ではない職員から子どもの様子をよく聞くようになる ・職員が笑顔で保育していた ・他園の研修にも出席し学んでいることが多かった	・サポートプランについて、加配児担当以外の職員も含めて共通理解したり支援方法を検討していく ・支援の仕方、子どもの見とり、関わり方を学べるよう積極的・専門的研修を受けていく
	(1)組織体制の充実	・分掌の内容や役割が見える化し職員の協力のもと運営されている	・園全体の計画を基に分掌で企画したり、分担を割り振り、伝達を行うなどして実施している ・行事の計画、内容を職員が見える所に掲示し、自身の役割が見てわかるようにしている	B	A	・園全体で分担して行うことで、担任ではない職員から子どもの様子をよく聞くようになる ・職員が笑顔で保育していた ・他園の研修にも出席し学んでいることが多かった	・行事ごと担当を決める等、一人一人が自分の事として考えて取り組めるようにする
6 研修	(1)研修体制の充実	・園内研修テーマを理解し、手立てを具体化し実践することで学びを深めている	・重点目標の『やってみようがいっぱい』を基に、子どもが遊び出せる環境や支援を日誌に記入し実施している ・園内研修に参加できない保育者がビデオで撮影された映像を観て話し合い、学びの共有をしている	B	B	・保育者が本気で子どもと一緒に楽しんでいる姿が見られた。保育者が本気だから子どもも楽しいと思う ・見立てて遊んでいる。多様性ということも含めて小学校につながる ・写真を目を引くので園での様子がわかりやすい	・園内研修は研究保育の事前研修、事後研修の他にも研修をしていく機会を設けていく ・研究保育についての研修内容を深めていく
	(1)教育・保育環境の充実	・子どもの発達や興味、関心、探求心を動かす環境が整えられている ・実体験を積み重ねられる環境を充実させる	・日々の保育だけでなく行事を通して新しい遊びや文化に触れられる環境を整えている ・コンテナ、パレット、タイヤ等動かして遊べるもの、興味のあるものに見立てられるものを豊富に用意している ・保育者も共に制作遊びをしながら道具の使い方を知らせている	B	A	・保育者が本気で子どもと一緒に楽しんでいる姿が見られた。保育者が本気だから子どもも楽しいと思う ・見立てて遊んでいる。多様性ということも含めて小学校につながる ・写真を目を引くので園での様子がわかりやすい	・保育者自身がまず楽しんで教材研究をしたり遊びこんでいく ・とって置く物、片付ける物の区別をし、最後まで子どもの作品を大切に扱うようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園での様子をボードで視覚化し、クラスだよりや連絡帳を通し、育ちや学びの姿を伝えている	・子どもの様子を写真を取り入れたドキュメンテーションを作成し、玄関に掲示し保護者に伝えている ・連絡ノートに個人のエピソードを記載し、どんなことに興味をもっているかな等も記入し伝えている	B	B	・ドキュメンテーションは「就学までに育てほしい10の姿」を意識しながら、ねらいや子どもの姿、育ち、気づき等を記入していく ・子どもの作品を保護者の見える所に展示する	
	(1)近隣の園との連携	・近隣園や小学校との交流を行い、教育保育の情報交換を図り連携を進めている	・年長児が小学校に招待して頂き、秋の自然物でゲームをしたり小学生と交流した ・近隣園の研究保育を参観したり、他園の職員が自園の研究保育を参観し情報交換し保育に生かしている	B	B	・散歩に行き地域に残っているお屋さんを知る機会があると良い	・小学校の校庭で遊ばせていただく機会を増やし、小学校の雰囲気を感じたり小学生と挨拶したり交流していく ・小学校の先生方に園や子どもの様子を見ていただき情報交換していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・状況にあった地域との交流を行い園だけではできない体験の機会をもつ	・散歩中、出会った地域の方や中学生と挨拶を交わしたり、散歩先の消防署の方に消防車に乗せていただいたり、ナショナルトレーニングセンターに来ていたサッカー選手と交流する経験をした ・毎週散歩を計画し、地域を歩き地域の方と挨拶したり、地域の自然、建物等を知る機会を増やしている	B	B	・散歩マップの掲示場所を子どもが見やすい場所に掲示したり、危険箇所や新たに発見したものを加えていき活用していく ・お米屋さん、魚屋さん等お店屋さんの方から直接食や物に関する話が聞ける機会をつくっていく	